はじめに

夏らしい夏もないままに，紅葉の季節を迎えて，はや，平成4年度の年報をまとめる時期となりました。

本年は地球規模の異常気象に加えて，我が国では噴火，地震，風水害などたえ間なく自然災害に見舞われ，心痛む年となりました。

また，昨年に引き続き世界情勢の変化も目の離せない状況ですが，我が国の経済的低迷も地方自治体にとって，まことに厳しい財政運営を強いられることとなっております。

私どもの衛生研究所業務にとりましては，昨年に引きつづき水質基準の大幅な改正と輸入食品や輸入感染症に対する監視強化にともなって，検査業務の増加とレベルアップなどが従来業務に積み上げられ，これらに対応するため業務の緊急な見直しと効率化が必須な情況となっております。

ときまさに，厚生省の「地域保健の総合的な見直し」の最終年でありますが，衛生研究所の地域衛生行政における立場や役割についても問い直すよい機会であり，今後，衛生研究所内外の要望や期待が具体化されてくるものと認識しております。

さて，私どもが事務局となり昨年より準備をすすめて参りました国際新生児スクリーニング学会の第1回アジア太平洋会議とそれに続く第21回日本マス・スクリーニング学会（会長：高杉信男衛生局長）の2学会が6月21日～26日にわたって札幌市で開催されましたが，国際協力の趣旨に沿うみのりある会として，成功裡に終えることができました。

この機会をお借りしまして，ご支援下さいました関係の皆様に深く感謝申し上げます。

本年報は，第20巻で発刊以来20年を経過したことになります。いま，振りかえって年報をひらくとき，それぞれの時代に求められた社会的ニーズとそれに対する努力のあとをうかがうことができ，あらためて私どもに課せられました正確な科学的記録を残すという重要な責務を痛感しております。

何とぞ，ご忌たんのないご意見とともに今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成5年11月

札幌市衛生研究所長
菊　地　由生子